萬葉拾穗抄

十二之八

水平多 上小 椎 蒔 北要平多
ゑをかるみのばか
見安云ひけいろ乃 擇擢之葉曽吾獨宿
ゑ岡ゝ 廣ゑ
交れいえていせすを 虚イ有合 捐宿物平小山田之
ひけてれもえう 廃猪田禁小加 廿之 守為裳
あるれゝひわ
ぬるくゝ日本紀三高田
こゝろあいけひぬる
仙覚ゝまいと和久古ま風狩類衆当こゝろあゝいこゝろ云ゝ用ゝ古ゝ甲ゝ八
廃結乃賀田心心を会せ中は生ゐゝ物をゝゝこゝ母乃ゝ守ゝよ
こ女乃母の割ゐるとあけゝ当れ云ゐゝ侍ゝハゐゝゝすゝ
ゝゐ甲心ゐ甲ゝ仙抄三八ゝ甲ゝ八一股乃母ゝ田一股の甲ゝ八千六六千
あるゝゝ堅すゐ頂月

春日野小照有暮日之外耳
かすのかてるゝ月かもゝ
日ハゐゝ小照せも君平相見而今曽悔す
ゝゝをひゝてゐまゝ名ゝゝ

足日木乃従山出流月待登
ひさゝ月ゝゝゝ
人小波言而妹待吾平
ひとゝゝいゝゝゐまゝれを
夕月夜五更闇之不明
ゆゝよゝりつゝゃれかのゝめ
日之人故戀渡鴨
乃ひとゝゆゝりこゝひわる
又堅之天水虚小照
ひさゝゝのゝゝにてる
日或作月之持一云吾戀
ゐゝまゐ
止月
十五日
ゝゝ乃日かいてみれるゝ
君平座而何物乎恋将念
ゝゝをゝゆゝせゝのゝなもゝん
月見如門小出立足占為而
ひさゝゝみゝそゝ

…らの月いでて…
仙日十五夜の月ぞ…
出ゝ…ゝ…ま…
…れにけるそらんこと
月夜よみ門に…
白たへの…みをふ…
…て心たにすむ…
うえ…れ…
心ゆく

ひさの山を
木こゆき山月ま…
つゝ…ゝひみか
ほる…乃さねさき
古さ…ゝ…
…ゝ…ゝ…
…ゝ…ゝ…
…ゝ…ゝ…
一説さねさきあひて…

妹二不相有二
夜渡月之清者
吉見而申尾君之光儀乎
足引之山乎木高三暮月乎
何時君平待之苦
…ゝ…ゝ…
…ゝ…ゝ…
古人介者惣不如家利

佐保川之川浪不立静雲
さわ…乃川なみ…
君二副而明日…欲得
吾妹兒赤衣
…毛有…
…妹之目平…
登能雲
…無毛君者…念
…妹兒哉安平忘
…振川之…絶跡念倍也
神山之山下響逝水迎
水尾不絶者後毛吾妻
…

大和歌もとうて心ねされ浪とりまぜて序文をかゝせ
わまもこれあをみまいわまもこやとよひみする歌あをとゝ
神ながら川いでゝ布留川を神ながらとよむ古ふみ
こえんとつり汲ほよりり寄心ハ月ゆちて歌中をまハよりこえんとゝ
さりともわれをとゝわすれまするゝをとゝをするの詞
をみ山乃山とゝよりみ序文歌四ケをいとすりとゝいふ乃尾とわり
おとかねそよりり

加一神 采開 瀑 之 白浪乃
おみのことゝきこゆ
面 知 君 之 不所見 比日
忍ふ乃神のことゝ
山 川 之 瀧 亦 流 戀 為 登 曽
くきこゆる歌ゝ五東
面知君ハ忍ふ乃神ハ心
但古ふみ同体六句ゟ
人 知 亦 来 無聞 念 者
ろくゝをゝ俗心ゟね
足 檜 木 之 山川 水 之 音 不一 聞
きとゟ白きとゟ心カ
人 之 子 姤 戀 渡 青頭鶏
やま川乃ゝまふ山乃
心乃ほゝくゝ

乃ゝまふ山乃ゝまふ山ゝまふと人ゝ知ねと思ふ
ひまれ山川ゝの一云ゝ序ゝ人乃ゝまゆゝとハ人の
高 端 亦有 能登瀬 乃川 之後 将合
書ゝ五ひまふ山ゝとゝ
妹 者 吾 者 今 亦 不有 十方
のゝせの一説ハみ生ゝ
浣 取 瞽 河之 川余杼 能
のゝせのゝいハほゝ
不遍 年 心 思 薫 都毛
ゝとえんこゝろおゝいゝ
班 鳩之 肉 可乃池之 宜
妹ゝハほゝあゝんとゝ
君 平 不言 者 念 衣 吾為流
ひゝきぬゝ乃ゝ
純 沼之下 従者将戀 市白久
序文ゝ乃ゝ
人之 可知 為来也毛
ゝとゝ
班鳩因可池乃ゝ
ひゝきぬゝ乃ゝ
歎 為来也毛
ゝとゝ和するゝ
ゝるゝよゝるゝの池

[illegible]ようくもとハおもふまゝおもふもおもはぬこゝろねにこそ立ちぬる
心なりし一説よきまゝおもふもおもはぬこゝろのあけまきにこそ
こゝろねぬ乃下ふかいこゝろぬいかれる池へ下みとゐるん涙
ゆくゑおもこゝれる
まかり違ふくことも
ゐる池へ乃下思ひと
ゐるん涙なりけり
こゝろねのまゝよ
隠沼乃下ふかの我恋
自波いちしろく乃
我恋いてねい寝ぬ
下ふ点鉾かて人乃
知つきよとふ不出と
いとゞめをとゞめくりかれ
乃やくりこゝろ
さゝら波いまそ
の涙

去方無三隠有小沼乃下思介
吾曽物念頃者之間
わすこうものなふこゝろ
隠沼乃下従戀餘自涙之
こゝろねのまゝよ
灼然出人之可知
いちしろくいてぬ人乃まゝ
妹目乎見巻欲江之小浪不さわぐ
味乃めをとゞめくりかれ
敷而戀乍有跡告乞
まゝよこひつゝなふもこゝろ
石走無水之水能早敷八師
いもるまのわれをまゝよ
君尓戀良久吾情柄
まゝよふこゝろ

君者不来吾者故無立涙之
まゝよいこすわれハゆへなみ
敷和備思如此而不寐跡也
まゝよくわひしつゝ
淡海之海邊多波人知奥涙
なみのうへよりひとまるおきつなみ
君平置者知人毛無
まゝをまゝよくいまるひともまる

[illegible]ゝ味の我を
しまにまもりて
なりとうはゝ
つゝまるまゝのう
まゝのまゝおこせ二三
句いまゝよこいそ
む涙ゝまやこいし
ようこりの句を無水乃われよきにこゝろ
まゝよりこゝろもわり心うゝりん人やりなりぬわまゝよりこゝろ
まゝよいこすわれハ故なみとゐ我恋のいかり
也立波とハまゝよくこゝろ涙ゝ頻ゝ信きるハ叫てらまゝよ
なりのうへ乃海ハ
破なとゝもゝ人を知ぬ沖ハ
けて君を重ていこゝろ涙ゝ
おうみのうこと

大海之底平深月而結義之
おおうみのうこと

妹心者疑毛無
いしこころそうこうもる
負能納尒依流白浪無間ひまもく
さこのうへふよする白波のうへるく
思平如何妹尒難ㇾ捐
なもをあそうこもろおいてまさ
念出而為便無時者天雲之
たもいてすあきさきはなやの
奥香裳不知癒作曽居
おくりとすこいにうそる
天雲乃絶多比妄心有者あへ
あまのこのいやすきこころあまは
吾手莫憑人乃松待者苦毛
わまをのめまくいふそと

君之當見作妹乎将居伊駒山
きみのあたりみつつもちんいこま
雲莫蒙雨者雖ㇾ零
やまかくうあめそもる
中中二如何知業吾山尒
なかくうなあめとりんわるこま
燒流火氣能外見申尾
もゆるひのよろにほのみえわたる
吾妹兒尒癒為便名雁曽平熱
わもこにこすへなりしなやき
且ア闇者所見霧可聞
つさとあくれはそのるきりうし
暁之朝霧隠ㇾ雁又羽二
あつきのさきりこもりかりかねの
如何癒乃色丹出尒家留
いそりこころいろにてかるる
思出時者為便無佐保山尒
なもいつるときはすへなさほやま
立雨霧乃應消所念
たつあめきりのきえへくおもほゆ

あろまのあさきりこころかくれ 殺目山往反道之朝霞
なりいもるはハ 匂袁 きりめ山ゆきゝよみちの乃あさかすみ
けぬまきこいん孤ほ 髣髴谷ハ 妹尒不一相 年
きりめ山ゆきゝふるの 如此将戀物等知 者タ置而
上乃ハ序ゝきりめ山ハ 也ほのかにてやハ跡ゝ重て
ゝれ於紀伊ゝ之妄云 且者つゝ尒消流露 有申 尾
能野也
ゆくこいん孤ほ之袁ハ 暮 置而 且 者 消流 白 露之
類聚二千石ほとおハ 可一消 戀 毛 吾 者 為 鴨
きゆゝとゝろ一首ゝ 後 遂 尒 妹尒 将一相 跡 且 露之
ゆへときそてあゝハ 命 者 生 有 戀 者 雖一繁
寺尒ゝ消 いのちてハおかいもかありんとこのさつのの
のちてハおかいもかあ いのちてハいけまこといハゝけまゝ。。
りんとこのさつのの
いのちてハいけまこと
いハゝけまゝ。。

をのみてまゝとゝ 朝 且 草上ゝさゞよ白 置露乃
ゝけまゝといけれとゝ 消 者共 跡 云師 君 者手
あさおかにる孤ほの之 朝日指 春日能小野尒置 露乃
祇回清ゝゝもみとゝく 可一消 吾身惜 雲 無
野一人今ハゝくみう けぬまきわるおもくゝもし
ゝゝゝやと作る 露 霜乃消安 雖一老
ゝゝゝとう孤ほ ことわりハ葉乃 又 若ゝま友 手思 将一待
こと利ハ葉乃 君 君 平思 将一待
ゝ乃ハ序ゝ春日小野大和 待君 常庭 耳 居 者打靡
序ゝ春日小野大和 吾 黒 尒 霜 曽 置尒家類
ゝゝのけやすき 白 細 之 尒 露 曽 留 尒家留
ゝゝのけやすき
ゝゝ素ハ枕詞ゝ
きみよりと庭乃
打なひきハ柳ゝて

朝霜乃 可消耳也 時無二
うさこそものけぬくのこそはなる
恩 将レ度 氣之緒余為而
なりいくんいきこのおのして
左佐浪之波越 安礼仁 落小雨
さゝなみのはこすのさにふるこさめ
聞イひまそ又 置而 吾不レ念 國
わくもをきくわかをもふる小
神左備而 巖余生 松根之
かみさひくいはおるまつねの
君 忘不得毛
きみのこゝろをわすれつゝ
御猟為 雁羽之小野之 櫛
みかりする かりはのをのの くし
奈礼波不益 戀 杜益
なれはゆさてこひこそまされ

櫻 麻之 麻原下草早生者
さくらのさはのもとくさはやきは
妹之下紐 不レ解有 申尾
いもかしたひも とけあらもをと
書日野尓淺茅 標結 斷来也
かすのにあさちしめゆひ たえすきぬやも
吾会 人若 弥遠長尓
わかおもひ ひとしやこゝろなか
有レ木之山妻 根乃 懃
あるきのやまつま ねもころ
吾波當 無依 君之光儀乎
わはあたる よるしきみのすかたを
吾会 因乎 将見
一云わかおもひ ひとをこそよ

垣津旗乃 開 澤 生菅根之
かきつはたの ひらけさわに おふるすかねの
絶祁兒 君之不所見頃者
たえけるこ きみのみえさるころは

足檜木乃山菅根之懃
ねもころよ
不止念者於妹将相可聞
やまずおもはば妹がいへのあたりも
有物半鴨菅根乃
あいおもはずは菅のねの
不相不念
懃ねもころおもへども
吾念有良無
山菅之不止而公乎
やまずかもきみ
念可毛
吾心神之
わがこころかも
者名寸
妹門去過不得而草結
いもがかどいきすぎかねて草むすび
将顧
風吹解又
かぜふきとくとかへりみんかも
直相麻氏尓
一云ただにあはまでに

浅茅原茅生或云見茅生
つばらかにものもおもはず
吾念兒等之家當
わがおもふこらがいへのあたりかも
妹之家當
一云いもがいへのあたり
内日刺宮庭有跡鴨頭草乃
うちひさすみやにあれとつきくさの
移情
うつろふこころをわがおもはなくに
百尓千尓人者雖云月仲之
ももちにひとはいふとも月なかの
将持
もちてまめやも
吾八方
萱佃吾紐小
わすれなそわがひもに
着時常無
念度者生跡
おもひつつれをいけりとおもふ
丈奈思
五更之目不酔仲跡此
あけぬめりとそをぶ
平谷

見作 座 而 吾 止 偲 為

又はいつもいつもわすれ草 垣 毛繁森 雖殖 有

わすれそおほしもみそうしと 萱草 之 志許草 猶 戀

萱草を常忘草といふをもとゝして本文をかくはかなくうつゝにはこゝろせぬ故 浅 茅原 小野 標結 空言毛

忘れ草はこゝろにもあらねどもうつゝ乃こゝろなき故 将相 跡 念聞 戀之 名種 尓

山寺にかゝるをもきゝて暁乃鐘をかねそをとゝよめるをとりてをきて 知 志君 矣 志 将待

一云こんとたのめてきみをかもまん

又見柳本朝臣人麻呂歌集 然落

句少異耳

まつはゝ三せすとゝいへるより後朽乃髄脳もゝ人宅神社おほし四条 神社おほし四条 三社 詣 標結 空言 事 毛

おもひもかけぬ小舟小標結ことゝいへるもおなじ心歟本落句 等 乃 毛

皆人之笠尓縫去有間菅

今ゝ人乃ぬふかめてふ有間菅

序哥のこゝろあれどもとりてはもちゐず

在而後尓毛相等曽念

なかるゝのちもあひなんとこそ

三吉野之靖乃小野尓苅草之

よしの野のやすの小野にかる草の

念乱而西宿夜四曽多

なやみつゝにしてぬる夜おほきかな

妹待跡三笠乃山之菅之

いもまつとみかさの山のすがの

不止将来余

やまずはやこんいのちあるまに

不死者巌迫有玉葛

しゝなゝは岩せまりたる玉かづら

谷延

谷へはひつゝ

令夏イもす 有者 年二 不来 友
をつてつのくそうかこすると
一云 石 葛 令夏 之 有者
水 草 之 岡乃 葛 巣緒吹 変
面 知 皃等之 不見 比 鴨
赤駒 之 射去 羽計イ 真田葛 原
何 傳 言 直 将吉
おかしてこともよろん

木綿疊 田 上 山 之 狭名葛
在 去 不含有 十方
之毛

ゆふてみてるみ山
仙回ゆふ隔也
ねき乃串乃くらふ
ゝ紙をーてそれさ
めてゆふてを云抱てみてる紙のすうに
物思てこるみをりみをる乃紙こゝにゐる
絶をことをると回上ゝ近江勝乃白ゝねさるの
ありさりてゆーゆきもくあいくりせるとゝ心を含
めるる奇心ゝ於すると
よめる奇也さるくさねろ

冊 波道 之 大江乃 山 之 真 葛
ーふそぢ乃おゝえのやまれさねろ
冊波路乃大江乃 絶年乃 心 我
序哥 たえんのこゝろわすれ 不忌
おゝさき 大 堺 之 有 礒乃 渡 延久受乃
おゝさきの

3075 3074 3073 / 3079 3078 3077 3076

[illegible]

3073
木綿裹 或作疊 白月山之佐奈葛 後毛必 将相 莫念

ゆふつゝみ 白月山のさなかづら のちもかならず あはんとおもふ

[illegible] 白月山八… 近江 [illegible]

3074
唐棣花色之 移安 情有者 年乎曽寸経 事者不絶而

[illegible]

3075
如此而 曽人之死云 藤浪乃 直一目耳 見之人故尓

[illegible]

3076
住吉之 敷津之浦乃 名告藻之 名者告而之乎 不相毛恠

[illegible]

3077
三佐呉集 荒礒尓生流 勿謂藻乃 吉名者不告 父母者知鞆

[illegible]

3078
浪之共 靡玉藻乃 片念尓 吾念人之 言乃繁家口

[illegible]

3079
海若之 奥津玉藻乃 靡将寝 早来座君 待者苦毛

[illegible]

海若之奥尓生有縄乗乃
わたなのおきふかみるまおのみや
名者曽不レ告。。 玉者雖レ死
名ハうしの玉ハさねども
玉緒平片緒尓捲而弖緒平弱跡
乱時尓不レ癒有月ハ方
君尓不レ相久成宿玉緒之
きみにあひてひさしくなりぬるものを
長命之惜雲無
ながきいのちのをしけくもなし
玉手益今者玉緒之
こと手ますいまハたまのをの
絶而乱可死
たえてみだれむしぬべきまで
海處女潜取去忘貝
あまおとめかつきさるてわすれかい
代ニ毛不レ志
よにもしわすれず。
妹之光儀者
いもがすがたハ

朝影尓吾身者成奴玉鯖
あさかげにわが身ハなりぬ玉さばの
中中ニ人跡よ不レ在者桑子尓毛
なかなかに人とあらずハくわこにも
成益物乎玉之緒計
なりまさるものを玉の緒ばかり
真菅吉宗我乃河原尓鴈千鳥
ますげよしそがの河原に雁千鳥
間無吾背子吾戀者
まなくわがせこわがこふるハ
庭木着棡乃山尓鳴鳥之
にはきにつくゆずりはの山になく鳥の
間無時尓吾戀苦者
まなくときにわが恋くるしハ
遠津人獵道之池尓
とほつひと猟路の池に
立毛居毛君平之曽念
たつもゐるも君をのみぞ念

序哥とおもひしハ此ほとの
ものさひしけれハわれハ
新まろ
ろ〳〵と云歌の新ハ
わらうすくりのきゝへ
ける
ものゝ
ゆゑ
人こゝろ
生ける
人ハおもしろ
人ハ
おかしきをうけん
しらへもさ
ま〳〵
ありけよきさうの
さうのほの原生せしうさ
乃ゝ君心清き之と當ひ

上ノ日本紀ニハ素鵝（スカ）ト書セリ（序ノ終）

こひ衣きたるの心 真衣はきたるの心 まそ人ハ男子ノ美称 梓弓（アヅサ）ハ檀山太和ニ多クアル山ノ名 梓弓ヲ著（ハ）ルト云ハ山ノ名ニ寄セテ云ナリ（序ノ終）

もゝとりハ百鳥ノ惣名 ものゝふハ八十伴男ノ惣名 一云ハ諷誦（フジュ）ノ音ノ耳ニ聞ユルヲ云ナリ（序ノ終）

葬邊往鴨之羽音之聲 耳聞管本名戀度鴨

鴨尚毛己之妻共求食為而 所遺閒尓戀云物乎

白檀弊太乃細江之菅鳥乃 妹尓玄 哉将見宿金鶴

小竹之上尓来居而鳴鳥月半安見人妻姤尓吾戀二来

物念常不寐起有 旦開者

和備氐鳴成鶏 左倍

朝鳥勿鳴吾背子之 旦開之容儀見者悲毛

柘楾越尓麥咋駒乃 雖繋不勝鳥

左倍 隈莊隈河尓 駐馬之水 令飲吾外将見

於能礼故所署而居者駿之
をのまつのまくらゆふかほのうたのこゝろ
面高夫駄赤来而應来哉
おもしろみのありてくく
此一首平群文屋朝臣益人傳云
清閑紀皇女竊嫁高安王被嘖之
時御作歌也高安王左降任伊豫
國守也

爲乃多久多名を告て
別ゆくを秋くさ
まてこゝろむきそむる
一二句は譬のことくに
うはさをもきゝそねたみ
こゝろをもいひ
こゝろをもて
さしのまよひのこゝろ
大和國高市郡也古
今集には河内
のこゝろ川
生て安閑
のれて 此旁註云紀皇女
のれの
ひくくまて 此旁註云紀皇女
せられ 哥乃心
なり
おもしろくよめり
問答歌三十六首
二首
者灰指物首海石榴市之
むらさきはそれさすものゆへそれそいちの

紫草 平草跡別別伏鹿之
野者殊異爲而心者同
不想平想常去者真鳥任
卯名手乃社之神忌思持御知
問答歌三十六首

八十街尓相兒哉誰
やそかちまたにあひてるこやたれ
足千根乃母之名平雖自
あしちねのははがなをやすらめと
路行人平孰跡知而可
みちゆきひとをたれとしりてか

ありんといちごり
侍るもをく真り
わりてありんこちは
ろこゝろもねせすん
日なりく恋つゝる
とこそ

人のおやのそてふおり
けゝ推いる記
らし物なと人めを
こゝろも名のつゝまゝ
恋死ハゝゝ名り
久しつゝすハ人め
をおりつゝるもつゝと
ついこゝろりくりう
りうしつゝ助
並まりさに

人眼平多
ひとめをおほみ癒作衣居
こひこめやもこゝろいたくる

二首
人目太直不相而蓋雲
人めなりみてあふすけゝ
吾癒死者誰名持有裳
わりこいちゝるゝ名のん
相見為し者從君毛
なのひとのくりすれ君
吾曽益而伊布可思美為也
れそまゝりてゝいのり

二首
空蟬之人目平繁不相而
うつせみのひとめをしけみあはすして
年ぢ之ゝ経ゝ生者跡毛奈思
としのへぬるはゝしもなし
空蝉之人目多者夜干玉之
うつせみのひとめもしけくあらなもの

雖然玉梓乃使平
しかれとも玉梓のつかひを
将相者千遍雖念蛾
まつあはゝちへにおもへと
有勝奴
ありかてぬ

かつつゐく麻まと心
うつせみの人もと
奥儀(おくぎ)云咲(いふゑ)ひもねひて
叫(さけ)をきそなはる
れい人もこゝろなしと
あきはふるそて人と
シルそし玄悼と亜
奥儀(おくぎ)をきゝれいと
うつせみの人めもつゝく
為(す)るきふつきて
乃(の)りきと喜(よろこ)
れもこゝろおもきも
留(とゞ)めかねつゝ
人ことのたけくも
さゐゐ乃(の)人のいさめ
世のそしりをも人と
行(ゆ)さにとこゝ中絶(たえ)んといひのゝれて互(たがひ)に

夜 夢 平 次 而 所見欲
よるのゆめをたゝ
乃(の)りて

二首
懃 憾 吾妹平 人言之
慇(ねもころ)なるおもひとこと
驚。 尓 因 而 不通 比日 可怜
のたけさふとりてあいねこゝろ
人言之繁 思 有 吾毛吾毛
人ことしけくなれいもわれも
将絶 学 云而 捐之物嗚
こゝろんといてくるしものし

二首
為便毛 無 片 戀 平為登比日 尓
すべしるく叫(さけ)ぶこゑをすとやこゝろ
吾。 可死 者 夢 所見 哉
わりもぬまさいゆめよこゝに

妹之使 首 先 尓 来
いもかたくりきよこゝに

二首
在 而後毛毛 将捐 登言 耳平
ありてのちもありんとこのことを
堅 要 管 相 者 無 尓
叫(さけ)ふりもつゝいのちありと
捶 而吾毛 相 登思 友
きそよりておもへありんと
人之言 社 繁 君 尓 有
いふのことこそもけききみ

二首
緒尓言 氣 築 之妹 尚平
いきたえにわれいきにすゝ嬬(つま)を

人妻有跡聞者悲毛
我故尓痛加和備尊後遂
不相登要之言毛不有尓

二首

立而戸毛閇而有平何処従鹿
妹之来而夢所見鶴
立而戸名雖閇盗人之
窓通而入来所見従
今夕弾

二首

従明日者癒乍将在今夕弾

連

初夜従緩解我妹
今更持一寐哉我背子荒田麻之
金夜毛不落夢所見欲

二首

吾背子之便平待跡笠不著
出乍尊見之雨零尓
無心雨尓毛有鹿人目守
乏妹尓今日谷相

二首

直獨宿尓寐宿不得而白細

柚子笠尓著沽乍曽來
雨毛零夜毛更深利今更
特行君哉紐解誰名
二首
久堅乃雨零日矣我門尓
立乍濡通益
蓑笠不蒙而来有人哉誰
經向之痛足乃山尓雲居乍
雨者雖零所沾鳥來
玉緒乃徒心哉八十梶懸
水手尓船後而特居
八十梶懸島隠去者吾妹兒之
留哉振袖不得見可開
二首
月鐘礼雨毛沽乍哉
君之行凝宿可倩疑
十月雨之間毛不置零尓雨者
誰里之間宿可借益
二首
白妙乃袖之別平難見為而

李二人悲別歌二首
山吹乃立儀尓山清美
尓有乍鳥乃鳴毛
うぐひすの鳴毛
ひさかたの八十梶懸
わくらばの楫之音
やいとくれぬ君
きてこうとそれぬれ
こ朝と秋く女哉
やうやけ將ぬれ
男乃着心明
みるつきそれの
旅行乃男と思ふ
うこそ月あをし
ありつゝもとうす時君
あをこ哉いうる男

荒津之濱屋取為鴨
草枕羈行君乎荒津乎左右
送来飽不足社

二首

荒津海吾歸奉料爾
早還座而為愛
且筑紫乃方乎出見乍
鬼乎吾痛毛為便無三
ねのみしなかゆ

二首

豊國乃聞之長濱去晩
ふかのきくしもしるしも

日之暮去者妹食序念
豊國能聞乃高濱高々
君待夜等者定深
来

羈旅歌思ヲ共五十三首

柿本朝臣人麻呂四首

慶會大川邊若歴木
吾者久礼行去乍在乎妹戀乍居
吾妹子嘆乎令聞
度瀬別手向吾為
櫻花開哉散及見

誰北所見敬行
れんこそめくちりゆくもみん
こゝろのしづかなれば
并類聚乃和如此可
用いまきはなるまゝて我こゝろのうつろ(古里を)
尋ねしもいさにあらじ妹こゝろもこゝろ類聚乃古歌の心にてもあるべく
それとよるもわかるゝ袖の涙雨古歌よりてつゝ
わきもこを茅原のしめのまもなくも萬葉乃古歌
さてつゐるゐまきくやさ柄やちるまくのごとくの
ごとくの乃まきくのごとくの八重汐路をおきくの
古歌に同じく紙注
楓乃寺と見えたり但
戀楓のはきゝかぬよ
てゆくよめん
月のてきみを
楓かせゆく月と

豊浦濱松心
何妹相之始
作者未詳四十九首
月出而君平婆見登念鴨
日毛不易為而癒之重
月しうすてこうちけゝ

ついてゆくそいもを
かもよいろのきこと
月のてきみを
楓かせゆく月と

真去跡愛毛来我常顧
雖往不歸道之長千矣
去家而妹平念出灼然
人之應知歎将為鴨
里離遠有莫國草枕
旅登之思著尚癒来
辺有者名耳毛聞而名種目津
今夜從癒乃益益南
客在而癒者辛苦何時毛
行而君之月平将見

3137 3138 3139 3140 3141 3142 3143 3144 3145

遠有者先儀者不所見如常
こそなれいますらいえとてのこと
妹之咲ゑ笑者面影為而
しのうえやひそかにおもひみて
手毛不堪天来掌跡朝影ホ
ともへをつきてあれど知かね
持待妹之面影
まちんこひおもひけりこゆ
玉鉾之道尓出立別来之
あひだをなげいてもわかれこし
日従千念忘時無
月なりおもひわすれこと
波之寸八師志賀在癒尓毛有之鴨
そもまやしきりにおもふもそうし
君所遺而癒敷念者
まそかりをなれこいまさきらへて

忡枕寝之悲有苗尓
そまくらにこやしなげかるるなえ
妹平相見而後将癒可尚
いもをあひみてのちこそいえめなほ
國遠不相夢谷
玉ほこの直にあはず夢にだに
吾尓所見社相日尤右二
わがまへにてこそあらめ日もすがら
如是将癒物跡知者吾妹兒尓
かくしこひおもひわびずともこま
言問麻思平今之悔毛
ことだにもをいまのくやしさも
客夜之久成者尤頬合
たびのよるのひさしくなれば尤もかほ
紐開不離癒流比日
ひもとかずこひしなるころを
吾妹兒之阿平。偲尽志申枕
わぎもこのあへを。しのびつくしまくら
妹之尤寐尓下紐解
いもがともねにしたひもとけぬ

八十瀬渡 而誰故加
鈴鹿河 夜越妻 毛不在君
吾妹兒尓又毛相海之安河
安寐毛不宿尓 念度鴨
客尓有而物乎曽念白浪乃
八十瀬乃 (八十瀬渡 而誰故加 鈴鹿河 夜越妻 毛不在君 吾妹兒尓又毛相海之安河 安寐毛不宿尓 念度鴨 客尓有而物乎曽念白浪乃 八十瀬乃)

類聚三十巻 (類聚三十巻)
おきつもあみ 集十一巻 (おきつもあみ 集十一巻)
在千浪八重 (在千浪八重)
ぬれと妹の (ぬれと妹の)
邊毛奥毛依者無尓
潮轉尓滿来鹽能弥益二
應者雖剩 (應者雖剩)
奥毛依者無尓 浦乃
此尨尓過而後將戀鴨
在千方在名中目而行目文
家有妹伊將聞毛本名夢西所見
吾妹兒尓觸者無二荒礒廻尓
(邊毛奥毛依者無尓 潮轉尓滿来鹽能弥益二 應者雖剩 奥毛依者無尓 浦乃 此尨尓過而後將戀鴨 在千方在名中目而行目文 家有妹伊將聞毛本名夢西所見 吾妹兒尓觸者無二荒礒廻尓)

吾 衣 手者 所泊 可毋
わがころもでをそぬれてなもとろも
室之 浦之 湍門之 埼有 鴨嶋之
むろのうれせのさきなるおきつかの
礒越 浪尓 所泊 可聞
いそこすなみよねまにとろもし
霍公 鳥飛幡之 浦尓敷 浪乃
ほととぎすとびはたのうらにしくなみの
曇 君 乎待 因毛 鴨
くもりまをまつとしもかも
吾妹 兒平外 耳哉 贄越 懈乃
わぎもこをよそのみやにんえをこすとけの
子難 懈乃 陽 指 名君
こかたけのひさしなをきみ
浪 聞 従雲位尓 所見 栗陽之
なみのおとのくもゐにしるくみえしくりやまの
不一相 物 故 吾尓 依兒等
あはぬものゆえわれによるこら

わきもこをよそのみやこやしかけもこれをみ雖飽 左心 百尓 他 依
夫 柚 之真 若之浦 之 愛子地
こそもてのはまのまわかのうらのうるはしきこ
閒 無 時 吾 慈
ころもてのはまのまわかのうらのうるはしきこ
能登 海尓 釣 為 海部之 射去火之
のとのうみにつりするあまのいさりびの
光 尓 伊往 月 待 香光
ひかりにいゆきつきまちかも
思香乃白水郎乃 釣 為レ燭有 射去火之
しかのあまのつりするともしたるいさりびの
髣髴 妹 乎将見 因毛 欲得
ほのかにいもをみむよしもがも
難波 方 水手出 船之 遥々
なにはかたみなといでふねのはろばろに
来礼 籽 忘 金津 毛
きぬらしわすれがたつのも

心明し

うらとこくよの
又雨云は吉野に出雲
也と一説毋後を
東舟隊よ舟を急ぐを
うそはく急そ
よ〳〵あねそ〳〵と
童蒙抄云肥前の松浦
乃津松舟を松浦舟
と云ふ是れ付て統
紫舟を引くを云
云俗に引を統
紫舟期浦出〳〵をよ
引も重荷を序ふ
ゆゑ引と序ふ人丸
いさりするとは是一云を寛
永の序ふ也

浦廻榜能野舟附 目類 忘又
うらとこくよの又雨云は吉野に出雲
也と一説舟後を東舟隊よ舟を急ぐを
うそはく急そ
よ〳〵あねそ〳〵と
童蒙抄云肥前の松浦
乃津松舟を松浦舟
と云ふ是れ付て統
紫舟を引くを云
云俗に引を統
紫舟期浦出〳〵をよ
引も重荷を序ふ
ゆゑ引と序ふ人丸
いさりするとは是一云を寛
永の序ふ也

戀 不思 日毛 日毛 無
松浦舟 亂 宇江之 水尾早
纖取 聞 無 所念 鴨
射去 為 海部之 纖 音 湯鞍 干
妹ぶ 衆 来 鴨
若乃浦尓 袖 左倍沾而 忘 貝
拾 杼妹者 不所忘 尓
一云 忘 可恥郡母

草枕 羈 西居者 苅薦之
憂 海部之 礒尓 苅 妹尓 不戀 日者無
名者告 手師平如何 相 難 寸
國遠見 念 加 和備曽風之 共
雲之 行 言者 将通
留 西 人平 念 艇 野
居 白雲 止 時 無

悲別歌 三十一首

作者未詳

浦毛無去之君故朝且
うらもなくいにしへのきみ
本名禹戀相跡者無杼
うつもなくこふるこのころ
白細之君之下紐吾依倍尓
しろたへのきみのしたひもわれさへに
今日結而名将相月之為
けふむすびてなあひてんつきのため
白妙之袖之別者雖惜
しろたへのそでのわかれおしまれど
思而赦鶴鴨
おもひてゆるすたづかもの
京師邊君者去之平欝解可毛
みやこへときみはいにしへをうれたみかも
言級緒乃結手懈解毛
ことのをのむすびてうけもと
草枕客去君平人目多
くさまくらたびゆくきみをひとめおほみ
袖不振為而安蕙田悔毛
そでもふらずてやすゐのたまだおもひも

これをかは誰とかとこゝろ疑へゆきてとく人もあらなくに
誰とかとくらむひもをしてゆくものうきこゝろをおもはざらなく
神乍思而不忘
かみながらおもひてわすれず
白銅鏡手二取持而見常不足
しろかねのかがみてにとりもちてみれどつねにあかぬ
君尓所贈而生
きみにおくられてゐけるかひもなし
跡文無
あとみなし
君之行乎伊奈婆之良受
きみがゆきをいなばしらずて
陰夜之田時鳥毛不知山越而
かげのよのたどきもしらぬやまこえて
往座君乎者何時来座跡
いますきみをばいつかきますと
待乍将居
まちつゝをらん
立名付青垣山之隠者
たつなづくあをかきやまのこもりなば
数君乎言事不聞可聞
しばきみをことのしげくもきかずけむかも
朝霞蒙
あさがすみ
吾波持戀奈至于相日
われはこひんないたりてあはん日

日本紀私記曰青垣山
垂立之義也
ともに五音通

3189
あさかすみ　かすみ隠れる　青山如垣と云ふ比
かすみ隠れる　雖隠隠
かすみの山を　山者百重　雖隠隠
深く隠れる　不志　直相を古二
ひさしみの中まで　雖隠　君平思苦止時毛無
別れ来て小山乃陰を　一云心進
よそながらも　一云心進
こひ恋ふるかも　雲居有　海山越而伊往　名者
雲居なる　吾者将恋　名後者相　宿友
遠き心　われはこひんなのちは　不欲恵
ゆき方しらず　一云久夢乃如
ゆくらふいきそ　越去之　公之　所念
こひしきそのおもかげ　中陰之荒蘭之埼乃笠陽平
きりかかりいかさまに　見乍可君之山道将越
ひとりかきそのやまぢこゆらん　暮霧尓長恋為乍
一云ゆきかふなるこひもつらなり　可毛
勝間嶋態　山之夕暁
獨ゆきよそのやまぢこゆらん　可君之山道将越
三城越良年
一云今さらこゆらん
玉
不勝
かつぬまの　緒尓吾念君者鶏鳴
氣
東方阪平今日可越覧
あづまぢさして　磐城山直越来益磯埼
いそさきやまもとこさきのせいさきの
訝奴波乃浪尓吾立将待
こぬこころかもたのまれなくに
春日野之淺茅之原尓後居而
かすのの　あさぢの原尓後居而
皆隠山こぬその為
皆隠山こぬその為
いそきやまもとこさきの
未考
あやまれば名ぬれも
あやまれば名ぬれも
いきかふふもとの心
いきかふふもとの心
ゆくらふいきそ
ゆくらふいきそ
おもかげの
おもかげの
ひとりかきそのこやまぢ
ひとりかきそのこやまぢ
一云久夢乃如
一云久夢乃如
やまぢこゆらん
やまぢこゆらん
道中
道中
心あや
心あや
秘訣
秘訣
横見郡御坂
横見郡御坂

3197 3198 3199 3200 3201 3202 3203 3204

時其交無
こきそうやうしあるしわうこうみ
吾憩良苦者
往者向有淡路陽
すみよしのはま尓いもうとあそちもつ
何怜登君半不言日者無
あれときみをしぬ月にあ
明日従者将行さらん乃河之出去者
うすゐりいあるみかわにのってゆく
留吾憩作也将有
こゝれるれいこひてやうん
海之底奥者恐可
わたのそこおきいかろうとよろ
水手還往為月者雖経過
こきくみをしきへぬとも
飼飯乃浦尓依流日浪数布二
けひのうらふよするなみしくふ
妹之容儀者所念
いもかすかたいおもわる

時風吹飯乃濱ゆふ出居作
こきくりせいひのうらふいてゐて
贖食者妹之為社
あろふいのちをいもしらめこそ
柔田津尓船乗将為跡聞之苗
にきたつにふなのりせんとしるしなへ
加何毛君之所見不来
かもきみしまさぬ
玉洲具居潜分居舟之榜出去者
たまつしまにをるあまのこきてゆくらん
哀戀監後者會宿友
あこひをらんはいぬるともに
玉葛無絶将在山菅乃
たまかつらたえすあらんやますけのねの
思亂而寝作将待
おもひみだれてこひてまつらん

後居而憶作 不有者田篭之浦乃
海部有申尾珠藻苅苅
筑紫道之荒磯乃玉藻苅てゝ鴨
君 久待 不ㇾ来
荒玉乃年緒永照月
不厭君八明日別南
あの子ぬさもやたのすわらまちん

家跡ハ遠つおすハとハ遠つおんする
なつかしもしきこそりそれもしきこそ恋まや我住ニ荘
にそちのあつゝ乃 にそよ夫乃久つゝ
へゝりくも乃てかをつゝ吐嗟長もゝ乃てゝしこゝ
つゝ一首のうのを 年中てる月乃ごとゝ心
年中乃てゝも月ハある
事ねゝそれハ序ゝりゝくよゝてゝりねゝそよゝすわりゝんゝよゝりゝ

いさよ待一夜君念 久堅乃
いさよ待一夜君をおもふのよひさうの
清月夜毛闇夜可見
きようきこ月よも七夕よのこと久り
春日在三笠乃山尓居雲乎
おすおもふ今きれやますてゝおもを
出見毎君平之曽念
こゝろそゝとりきみをそゝもふ
足檜木乃片山雄立往年
つゝひさ乃ゝもまきゝす立ゆゝむ
君尓後而 打久時四鶏月八方
きみをそれてうつゝけめやも

萬葉集巻第十二

貞享三年丙寅閏三月廿二日書於新玉津嶋社中 墨付四十九枚